

抗うつ剤の分析 1 Antidepressants

抗うつ剤には塩基性化合物が多く、HPLC 分析を行う際には、しばしばピークのテーリングが起こります。

そこで今回、三環系（ドキセピン、イミプラミン、アミトリプチリン、クロミプラミン、トリミプラミン）四環系（ミアンセリン）抗うつ剤の一斉分析を行ないました。移動相には一般的なカラムではピークテーリングの起こりやすいアセトニトリルを用いていますが、**L-column2 ODS** ではほとんどテーリングがなく分析が可能です。

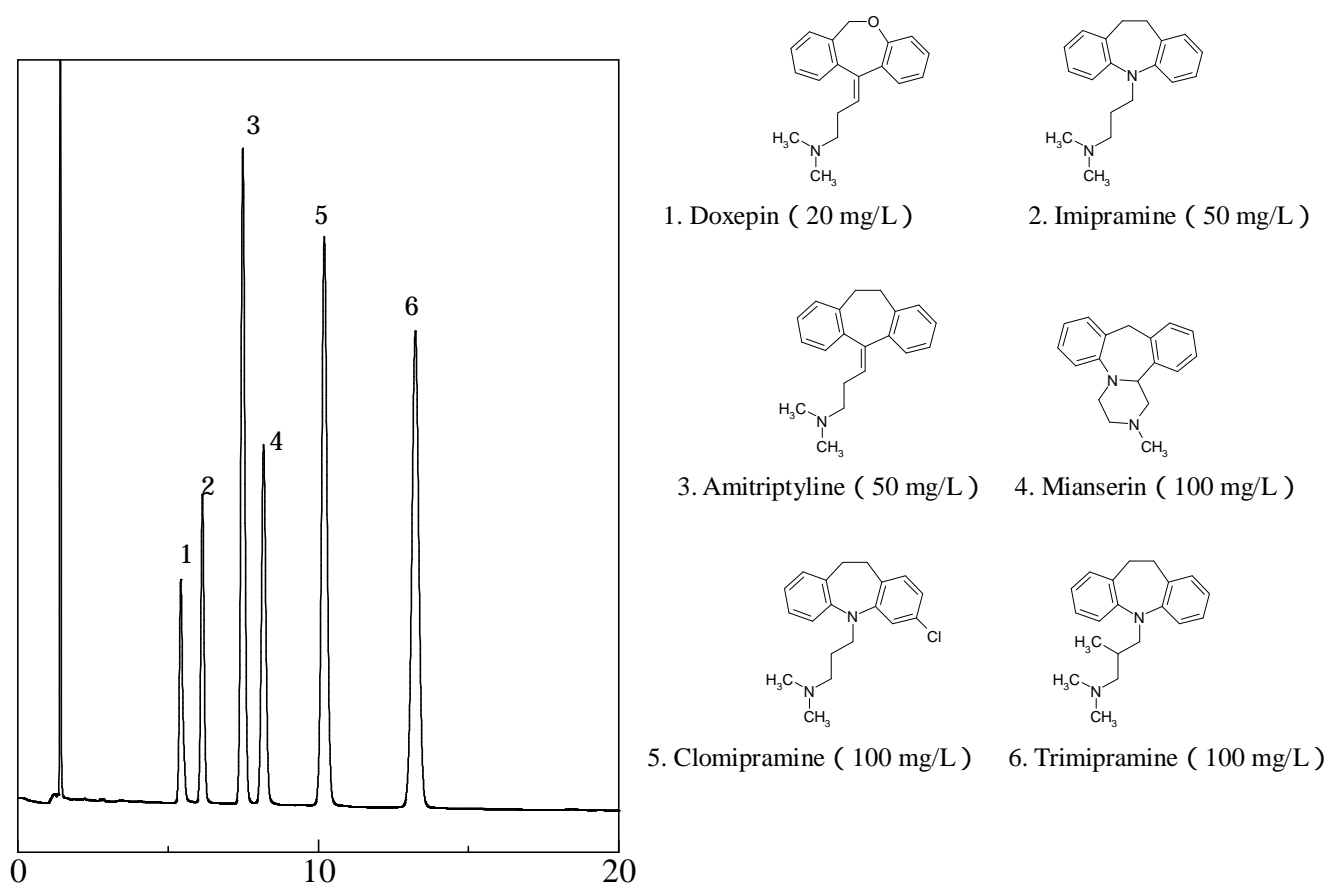


Fig. Chromatogram of Antidepressants

【Analytical conditions】

Column	: L-column2 ODS (5 μm, 12 nm) 4.6 × 150 mm
Mobile phase	: CH ₃ CN/25 mM Phosphate buffer pH 7.0 (60/40)
Flow rate	: 1 mL/min
Temperature	: 40
Detection	: UV 220 nm
Injection volume	: 1 μL in CH ₃ CN